

3年2組

 ミロ家族といっしょ
 ～山羊を見つめる中で出会う もう一人のわたし～


ミロと最後だからがんばりたい

音楽会前日、最後のステージ練習に臨みました。担任として、子どもたちの前に立ち、指揮をしていると、子どもたちの表情がよくわかります。真剣な顔、楽しんでいる顔、緊張している顔。その表情や声に、一人一人の想いを感じながら、本番前最後の指揮を振りました。なんだか込み上げてくるものがありました。

2組は、音楽会に向け2曲を選びました。創作曲「ミロと子山羊」、そして、斉唱「ボクノート」です。「ミロと子山羊」は、子どもたちの歌詞に黒岩先生や加藤先生がメロディーをつけてくださった曲です。この曲を初めて聞かせて頂いた時、「これいいね」と子どもたちからすぐに声が上がりました。素直な子どもたちです。本当に心からそう思ったのだと思います。3年生で初めて習ったリコーダー奏も入れ、出産に寄せる私たちの素直な思いを届けられたらと願っていました。

もう1曲は、「ボクノート」です。スキマスイッチの曲です。この曲は、もともと音楽会のために歌い始めた曲ではありませんでした。朝の会で歌うための一つの曲に過ぎませんでした。しかし、この曲の歌詞に子どもたちも、そして、私も惹かれていきました。



この曲を歌うと、「先生、もう一回歌おうよ」、「二番の歌詞が俺好きなんだ」、「歌詞の『君』ってミロ（山羊）のことじゃないかな」といった子どもたちのつぶやきが聞こえてきました。この曲の歌詞には、山羊と共にあった自身のくらしと重なる部分が多かったのだと思います。「ミロってね、かわいいんだよ。『ミロ』ってよぶと鳴くんだよ」、「ミルク、角、痛かったよね。ごめんね」、「○○ちゃんが学校で飼いつけたって気持ちはわかるけど、それってミロは幸せじゃないと思う」、「どっちにしようか迷ってる。ミロたちが話せたらいいのに」。これまで子どもたちが感じてきた思いは、決して綺麗な言葉だけではありません。それはまさに、「ボクノート」の歌詞にある「今、僕の中にある言葉のカケラ 鋭く尖って突き刺さる」といった具合であったに違いありません。「もがいている自分」も含め、たくさんの言葉が今、私たちの胸の中にあるのです。きっとその想いは、1組さんも同じだと思います。

朝、Sさんが、ミロの小屋に入っていました。ミロの背中に抱きつき、顔をうずめながら何か話しかけています。その声は、はっきりとは聞こえませんでした。ミロに愛おしさを感じていることがすぐにわかる姿でした。Sさんの音楽会の目標には、「今年は、しっかりと丁寧に口を大きく開けて歌いたい。声を大きくして真剣に歌い

たい。ミロと最後だからがんばりたいし、シロとミルクというかわいい赤ちゃんが生まれたからがんばりたい」とありました。これまで一緒に過ごしてきたミロのために、そして、新しく迎えた命のためにがんばりたいと今日の日を迎えていたのです。ミロたちのための音楽会です。

